

2015年度 修士論文

サッカー全国大会初出場を遂げた無名校が
常連校となるための方策

**The Way to Keep the National Competition Level after
First Participation for Football Clubs in Unknown High
School**

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科

スポーツ科学専攻 トップスポーツマネジメントコース

5015A316-5

樋口 恵輔

Keisuke, Higuchi

研究指導教員： 平田 竹男 教授

目次

第1章	序論	1
第1節	背景	1
第2節	先行研究	1
第2章	目的	2
第3章	研究方法	3
第1節	対象	3
第2節	方法	3
第4章	研究結果	4
第1節	戦績の変遷と各校の取り組み	4
第1項	伊勢崎商業	4
1)	戦績の変遷	4
2)	グラウンド	4
3)	寮	4
4)	選手獲得	4
第2項	甲府東	5
1)	戦績の変遷	5
2)	グラウンド	5
3)	寮	5
4)	選手獲得	5
第3項	常葉学園橘	6
1)	戦績の変遷	6
2)	グラウンド	6
3)	寮	6
4)	選手獲得	6
第4項	流通経済大学付属柏	7
1)	戦績の変遷	7
2)	グラウンド	7
3)	寮	7
4)	選手獲得	7
第5項	神村学園	8
1)	戦績の変遷	8
2)	グラウンド	8
3)	寮	8
4)	選手獲得	8

第6項	尚志	9
1)	戦績の変遷	9
2)	グラウンド	9
3)	寮	9
4)	選手獲得	9
第7項	帝京大可児	10
1)	戦績の変遷	10
2)	グラウンド	10
3)	寮	10
4)	選手獲得	10
第8項	福知山成美	11
1)	戦績の変遷	11
2)	グラウンド	11
3)	寮	11
4)	選手獲得	11
第9項	埼玉栄	12
1)	戦績の変遷	12
2)	グラウンド	12
3)	寮	12
4)	選手獲得	12
第10項	高知中央	13
1)	戦績の変遷	13
2)	グラウンド	13
3)	寮	13
4)	選手獲得	13
第11項	大阪桐蔭	14
1)	戦績の変遷	14
2)	グラウンド	14
3)	寮	14
4)	選手獲得	14
第12項	京都橘	15
1)	成績の変遷	15
2)	グラウンド	15
3)	寮	15
4)	選手獲得	15
第13項	富岡	16

1)	戦績の変遷	16
2)	グラウンド	16
3)	寮	16
4)	選手獲得	16
第14項	藤枝明誠	17
1)	戦績の変遷	17
2)	グラウンド	17
3)	寮	17
4)	選手獲得	17
第15項	宇部	18
1)	戦績の変遷	18
2)	グラウンド	18
3)	寮	18
4)		18
第16項	香芝	19
1)	戦績の変遷	19
2)	グラウンド	19
3)	寮	19
4)	選手獲得	19
第17項	駒大高	20
1)	戦績の変遷	20
2)	グラウンド	20
3)	寮	20
4)	選手獲得	20
第18項	座間	21
1)	戦績の変遷	21
2)	グラウンド	21
3)	寮	21
4)	選手獲得	21
第19項	市立西宮	22
1)	成績の変遷	22
2)	グラウンド	22
3)	寮	22
4)	選手獲得	22
第20項	富山南	23
1)	成績の変遷	23

2)	グラウンド	23
3)	寮	23
4)	選手獲得	23
第21項	正智深谷	24
1)	戦績の変遷	24
2)	グラウンド	24
3)	寮	24
4)	選手獲得	24
第22項	創造学園	25
1)	戦績の変遷	25
2)	グラウンド	25
3)	寮	25
4)	選手獲得	25
第23項	長崎総合科学大学附属	26
1)	戦績の変遷	26
2)	グラウンド	26
3)	寮	26
4)	選手獲得	26
第24項	札幌大谷	27
1)	戦績の変遷	27
2)	グラウンド	27
3)	寮	27
4)	選手獲得	27
第25項	米沢中央	28
1)	戦績の変遷	28
2)	グラウンド	28
3)	寮	28
4)	選手獲得	28
第26項	宇治山田商業	29
1)	成績の変遷	29
2)	グラウンド	29
3)	寮	29
4)	選手獲得	29
第27項	昌平	30
1)	戦績の変遷	30
2)	グラウンド	30

3) 寮.....	30
4) 選手獲得.....	30
第2節 研究結果まとめ.....	31
第3節 対象校の背景.....	33
第1項 加盟校数.....	33
第2項 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数.....	35
第3項 対象校の地域におけるJリーグチームとの関連性.....	37
第5章 考察.....	39
第1節 3項目に基づく考察.....	39
第1項 3項目を満たす学校.....	39
第2項 2項目を満たす学校.....	40
第3項 1項目を満たす学校.....	40
第2節 対象校における背景.....	42
第1項 加盟校数.....	42
第2項 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数.....	42
第3項 対象校の所属する地域におけるJリーグチームとの関連性.....	43
第3節 今後の課題.....	44
第6章 結論.....	45
参考文献.....	46
謝辞.....	48

表 1	対象校一覧	3
表 2	伊勢崎商業の戦績変遷	4
表 3	甲府東の戦績変遷	5
表 4	常葉橘の戦績変遷	6
表 5	流経大柏の戦績変遷	7
表 6	神村学園の戦績変遷	8
表 7	尚志の戦績変遷	9
表 8	帝京大可児の戦績変遷	10
表 9	福知山成美の戦績変遷	11
表 10	埼玉栄の戦績変遷	12
表 11	高知中央の戦績変遷	13
表 12	大阪桐蔭の戦績変遷	14
表 13	京都橘の戦績変遷	15
表 14	富岡の戦績変遷	16
表 15	藤枝明誠の戦績変遷	17
表 16	宇部の戦績変遷	18
表 17	香芝の戦績変遷	19
表 18	駒大高の戦績変遷	20
表 19	座間の戦績変遷	21
表 20	市立西宮の戦績変遷	22
表 21	富山南の戦績変遷	23
表 22	正智深谷の戦績変遷	24
表 23	創造学園の戦績変遷	25
表 24	長崎総合科学大附の戦績変遷	26
表 25	札幌大谷の戦績変遷	27
表 26	米沢中央の戦績変遷	28
表 27	宇治山田商業の戦績変遷	29
表 28	昌平の戦績変遷	30
表 29	項目まとめ	31
表 30	3項目を満たす学校	32
表 31	3項目のうち2項目を満たす学校	32
表 32	3項目のうち1項目を満たす学校	33
表 33	加盟校数	34
表 34	過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数	35
表 35	対象校の所属する地域におけるJリーグチーム	38

第1章 序論

第1節 背景

日本サッカー界に多くの選手を輩出しているのが高校サッカー部である。平成27年度現在で高校サッカー部は全国に4144校存在する。その高校サッカーの最高峰として全国高校サッカー選手権大会が存在している。この全国高校サッカー選手権大会は、2015年度で第94回大会を迎える歴史のある大会である。

過去10年（2005年度から2014年度）の大会における優勝校は毎年変わっており、過去10年で2度制覇した高校も存在しない。このことから現在の高校サッカー界は、実力が均衡化していると考えられる。過去10年間連続で出場を続けるのは、青森県の青森山田と石川県の星稜だけであり、地方予選を勝ち抜くことさえ容易ではないと考えられる。

こうしたなか、サッカー部強化を図る新興校も取り組み次第で勝機があると考えられる。過去10年の初出場の高校は63校ある。私立高校40校、公立高校23校である。

その63校のなかで、初出場時より3年前の成績が地方予選ベスト8未満の高校を調査した結果、27校であった。私立高校18校、公立高校9校である。この27校は近年急激に力をつけた高校であると考えられる。

本研究を進める中で、連続出場を続け、全国的強豪校である青森山田と星稜が備えている方策について調べたところ3項目が浮かび上がった。サッカー専用グラウンド、学校に隣接した寮、選手獲得である。

強豪校において以上の3項目を揃えているとがわかったが、常連校になるためには3項目は有効な方策なのだろうか。この強豪校が備えている3項目を、過去10年で全国高校サッカー選手権大会に初出場を果たした高校27校にあてはめて検証する。

第2節 先行研究

これまで高校サッカー部に関する研究は、古賀ら（2013）のJユースと高校サッカー部における指導哲学の比較に関する研究や、義岡ら（2012）の高校生サッカー選手に必要な基礎体力を総合的に改善するためのボールを利用したトレーニングプログラムに関する研究はあるが、サッカー部の方策に関するものは見当たらない。

第2章 目的

サッカー専用のグラウンド、学校に隣接した寮、選手獲得の3項目は全国大会常連校であり、全国的強豪校が備えている項目である。

本研究の目的は、3年前まで地方予選ベスト8未満で敗れていた全国的無名校が、全国高校サッカー選手権大会において初出場後、常連校となるための方策として3項目が有効であるかを明らかにすることである。

第3章 研究方法

第1節 対象

全国高校サッカー選手権大会において過去10年（2005年度から2014年度）で初出場を果たした高校のうち初出場時より3年前の成績が地方予選ベスト8未満の高校27校を対象とする。

表1 対象校一覧

	学校名	初出場年		学校名	初出場年
1	伊勢崎商業	2005	15	宇部	2010
2	甲府東	2005	16	香芝	2010
3	常葉橘	2005	17	駒大高	2010
4	流経大柏	2005	18	座間	2010
5	神村学園	2006	19	市立西宮	2011
6	尚志	2006	20	富山南	2011
7	帝京大可児	2006	21	正智深谷	2012
8	福知山成美	2006	22	創造学園	2012
9	埼玉栄	2007	23	長崎総科大附	2012
10	高知中央	2007	24	札幌大谷	2013
11	大阪桐蔭	2008	25	米沢中央	2013
12	京都橘	2008	26	宇治山田商	2014
13	富岡	2008	27	昌平	2014
14	藤枝明誠	2009			

第2節 方法

対象校の初出場後の戦績について調べると同時に対象校27校に対して以下の項目について調査する。

- ① グラウンド
- ② 寮
- ③ 選手獲得

また、対象校の背景における特徴を見るため、以下の3項目についても併せて調査する。

- ① 加盟校数
- ② 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数
- ③ 対象校の所属する地域におけるJリーグチームとの関連性

第4章 研究結果

第1節 戦績の変遷と各校の取り組み

第1項 伊勢崎商業

1) 戦績の変遷

表2 伊勢崎商業の戦績変遷

伊勢崎商	
2002	一次予選二回戦敗退
2003	決勝トーナメント一回戦敗退
2004	決勝敗退
2005	出場
2006	決勝トーナメント一回戦敗退
2007	準決勝敗退
2008	決勝トーナメント一回戦敗退
2009	決勝トーナメント二回戦敗退
2010	準決勝敗退
2011	準々決勝敗退
2012	準々決勝敗退
2013	決勝トーナメント一回戦敗退
2014	準決勝敗退
2015	決勝トーナメント一回戦敗退

2) グラウンド

校庭として天然芝のグラウンドを所有する。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

公立高校のため、確約された選手獲得を行うことはできない。入試においては学業の成績も選考の基準となる。入学希望者の練習参加は受け入れている。

第2項 甲府東

1) 戦績の変遷

表 3 甲府東の戦績変遷

甲府東	
2002	三回戦敗退
2003	三回戦敗退
2004	二回戦敗退
2005	出場
2006	二回戦敗退
2007	準々決勝敗退
2008	準々決勝敗退
2009	三回戦敗退
2010	二回戦敗退
2011	準々決勝敗退
2012	準々決勝敗退
2013	三回戦敗退
2014	二回戦敗退
2015	二回戦敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有。練習はそこで行う。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

公立高校のため積極的な選手の獲得は行えないが、入学希望者の練習参加は受け入れている。

第3項 常葉学園橘

1) 戦績の変遷

表 4 常葉橘の戦績変遷

常葉橘	
2002	二次リーグ進出戦敗退
2003	一次トーナメント一回戦敗退
2004	決勝敗退
2005	出場
2006	準決勝敗退
2007	準々決勝敗退
2008	決勝敗退
2009	準決勝敗退
2010	二次リーグ敗退
2011	決勝トーナメント二回戦敗退
2012	出場
2013	準決勝敗退
2014	決勝トーナメント一回戦敗退
2015	決勝トーナメント一回戦敗退

2) グラウンド

サッカー部が優先的に使用できる専用の人工芝のグラウンドを1面所有する。

3) 寮

寮はないため、県内の選手が大半を占めている。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による選手の獲得はないため、サッカーによるセレクションや練習会は行っていない。入試は学力を重視で選考を行う。特待生制度はあり、待遇は授業料の免除である。

第4項 流通経済大学付属柏

1) 戦績の変遷

表 5 流経大柏の戦績変遷

流経大柏	
2002	二次予選リーグ敗退
2003	準決勝敗退
2004	決勝敗退
2005	出場
2006	準決勝敗退
2007	出場
2008	準々決勝敗退
2009	準決勝敗退
2010	出場
2011	決勝敗退
2012	決勝敗退
2013	決勝敗退
2014	出場
2015	決勝敗退

2) グラウンド

学校敷地内に人工芝のサッカーグラウンドを2面所有している。

3) 寮

寮はあり、遠方からの選手を受け入れる環境が整っている。

4) 選手獲得

毎年県内外から多くの優秀な選手を積極的に獲得している。サッカー部に所属する生徒の9割近くがスポーツ推薦によって入学している。スポーツ推薦に関しては、主に夏場に行われる練習会に参加した者の中から監督が獲得を希望する選手に声をかけスポーツ推薦を与えている。また、中学時に地域トレセンレベル以上の実力の者に関しては練習会に参加していない場合でも積極的にスポーツ推薦を与え選手を獲得している。一般入部も可能であるが毎年ごく少数となっている。特待制度もあり、監督が判断して決定する。待遇は授業料の免除である。

第5項 神村学園

1) 戦績の変遷

表 6 神村学園の戦績変遷

神村学園	
2003	県大会一回戦敗退
2004	準決勝敗退
2005	準々決勝敗退
2006	出場
2007	決勝敗退
2008	準々決勝敗退
2009	出場
2010	出場
2011	決勝敗退
2012	決勝敗退
2013	出場
2014	決勝敗退
2015	決勝敗退

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝のグラウンドを所有。

3) 寮

寮は所有している。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による入試制度はある。特待制度もあり、待遇は授業料の免状である。

第6項 尚志

1) 戦績の変遷

表 7 尚志の戦績変遷

尚志	
2003	四回戦敗退
2004	準々決勝敗退
2005	決勝敗退
2006	出場
2007	出場
2008	準々決勝敗退
2009	出場
2010	出場
2011	出場
2012	準決勝敗退
2013	決勝敗退
2014	出場
2015	出場

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝グラウンドを1面所有している。

3) 寮

学校に隣接した寮を所有。

4) 選手獲得

サッカー推薦による入学のためのセレクションなし。監督が中学生に声をかけ、練習参加を要請し、認められた者のみサッカー推薦による入学が可能。サッカー推薦で入学した者は、スポーツクラスに入る。スカウティングは監督が関東圏のクラブチームの大会を視察して行っている。特待生制度も備え、待遇は授業料の免除である。

第7項 帝京大可児

1) 戦績の変遷

表 8 帝京大可児の戦績変遷

帝京大可児	
2003	一次予選一回戦敗退
2004	準決勝敗退
2005	決勝敗退
2006	出場
2007	準決勝敗退
2008	決勝敗退
2009	準決勝敗退
2010	出場
2011	出場
2012	出場
2013	準決勝敗退
2014	決勝敗退
2015	準決勝敗退

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝グラウンドを2面所有する。提携クラブであるコパンサッカークラブと共有している。

3) 寮

寮は所有するため、遠方からも選手が入学している。

4) 選手獲得

練習会を9月から11月まで毎月行っている。サッカー推薦による入試はないものの、入学希望者は推薦入試で受け入れる。特待生制度もあり、待遇は授業料の免除である。

第8項 福知山成美

1) 戦績の変遷

表 9 福知山成美の戦績変遷

福知山成美	
2003	不参加
2004	一次トーナメント代表決定戦
2005	二次リーグ敗退
2006	出場
2007	準々決勝敗退
2008	四回戦敗退
2009	一回戦敗退
2010	四回戦敗退
2011	決勝敗退
2012	三回戦敗退
2013	準々決勝敗退
2014	準決勝敗退
2015	四回戦敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有。主にはその学校の校庭で練習を行うが、近隣のグラウンドを借りて練習をすることもある。

3) 寮

寮は所有している。主に関西圏からの選手が入寮している。

4) 選手獲得

選手の獲得は関西圏を中心に行っている。夏に2回練習会を開催し、選考を行う。スポーツ推薦による入試もある。特待生制度もあり、待遇は授業料の免除である。

第9項 埼玉栄

1) 戦績の変遷

表 10 埼玉栄の戦績変遷

埼玉栄	
2004	決勝トーナメント一回戦敗退
2005	一次予選決勝敗退
2006	準々決勝敗退
2007	出場
2008	決勝敗退
2009	決勝トーナメント一回戦敗退
2010	準決勝敗退
2011	決勝トーナメント一回戦敗退
2012	準々決勝敗退
2013	決勝トーナメント二回戦敗退
2014	決勝トーナメント三回戦敗退
2015	準々決勝敗退

2) グラウンド

土のサッカー専用グラウンドを1面所有。主にそのグラウンドを使用するが、近隣の人工芝で行うこともある。

3) 寮

寮は所有している。遠方からの選手を受け入れることも可能。

4) 選手獲得

毎年、練習会及びセレクションを夏場に3回程度実施している。体育科があり、サッカー一部の生徒の大半は体育科に入る。特待制度あり。待遇は授業料の免除。

第10項 高知中央

1) 戦績の変遷

表 11 高知中央の戦績変遷

高知中央	
2004	不参加
2005	不参加
2006	県大会一回戦敗退
2007	出場
2008	準決勝敗退
2009	決勝敗退
2010	準決勝敗退
2011	準決勝敗退
2012	準々決勝敗退
2013	決勝敗退
2014	準決勝敗退
2015	準決勝敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドはあるもののサッカー専用ではない。広さも正規の大きさはない。また他の部活動と共有使用する。

3) 寮

寮は所有している。現在は関東圏からも選手が入寮している。

4) 選手獲得

サッカー部の練習会は随時行っている。スポーツ推薦はあり、専願のみ受け入れている。特待生制度はあり、待遇は授業料の免除である。

第 1 1 項 大阪桐蔭

1) 戦績の変遷

表 12 大阪桐蔭の戦績変遷

大阪桐蔭	
2005	六回戦敗退
2006	決勝敗退
2007	六回戦敗退
2008	出場
2009	五回戦敗退
2010	六回戦敗退
2011	決勝敗退
2012	六回戦敗退
2013	六回戦敗退
2014	準決勝敗退
2015	五回戦敗退

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝のグラウンドを所有している。グラウンドは学校から距離が離れているため、2・3年生はサッカー部専用のバスによって移動を行うが、1年生は走って移動している。

3) 寮

寮も完備している。そのため遠方からの入学者の受け入れも可能となっている。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による入試制度はあるが、スポーツ推薦による選手の獲得は基本的にクラブチーム出身者のみに限っている。また学業面やサッカーにおける成績、監督の判断によって特待生としての受け入れも行っている。待遇は授業料の免除である。

第12項 京都橘

1) 成績の変遷

表 13 京都橘の戦績変遷

京都橘	
2005	一次トーナメント代表決定戦敗退
2006	決勝敗退
2007	決勝敗退
2008	出場
2009	四回戦敗退
2010	準決勝敗退
2011	準決勝敗退
2012	出場
2013	出場
2014	出場
2015	出場

2) グラウンド

練習場は主に、学校の校庭を使用。土のグラウンドで、サッカーコート一面をとれる大きさはなく200mトラックほどの環境である。また他の部活動と共有で使用する。少しでも良い環境のもとで練習を行うために、スタッフが毎月抽選で近隣の市営グラウンドの確保に努めている。よく使用するのが桃山城公園運動場内にあるサッカーグラウンドである。グラウンド環境は土で、ナイター設備もない。

3) 寮

寮は所有していない。そのため、規模を広げてのスカウトはせず、近隣の中学校から入学する選手がほとんどである。それでも遠方から入学を希望する選手もおり、長時間の電車通学だけでなく、新幹線を利用しての通学をする選手がいる。加えて、保護者同伴の下で転居して入学するものもある。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による選手の獲得あり。また特待生制度もある。監督の判断で決めている。待遇は授業料の免除である。高校選手権の選手構成を見ると、地元京都の選手が中心であるものの、隣県からも来ていることがわかる。京都サンガ F.C U15 から選手を積極的に受け入れている特徴がある。

第13項 富岡

1) 戦績の変遷

表 14 富岡の戦績変遷

富岡	
2005	不参加
2006	四回戦敗退
2007	準決勝敗退
2008	出場
2009	決勝敗退
2010	五回戦敗退
2011	決勝敗退
2012	準々決勝敗退
2013	出場
2014	決勝敗退
2015	準決勝敗退

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝のグラウンドを所有している。

3) 寮

寮は所有している。富岡町の全面協力のもと、公立の高校でありながら充実した環境を持っている。

4) 選手獲得

富岡は国際・スポーツ科を設置するため、積極的に選手獲得を行うことが可能。

第14項 藤枝明誠

1) 戦績の変遷

表 15 藤枝明誠の戦績変遷

藤枝明誠	
2006	二次リーグ敗退
2007	決勝敗退
2008	2次リーグ敗退
2009	出場
2010	準決勝敗退
2011	準決勝敗退
2012	決勝敗退
2013	決勝トーナメント一回戦敗退
2014	準決勝敗退
2015	決勝トーナメント一回戦敗退

2) グラウンド

サッカー専用の人工芝のグラウンドを所有する。

3) 寮

サッカー部専用の寮を所有している。

4) 選手獲得

サッカーによるセレクションや練習会は設けておらず、希望をすればいつでも練習に参加が可能。スポーツ推薦による入試制度はないため、一般入試を受けて入学する必要がある。ただし、特待生制度はあり、学費免除の待遇が受けられる。特待生の選定はサッカーの実力を監督が判断して決めている。

第15項 宇部

1) 戦績の変遷

表 16 宇部の戦績変遷

宇部	
2007	三回戦敗退
2008	一回戦敗退
2009	二回戦敗退
2010	出場
2011	準々決勝敗退
2012	準々決勝敗退
2013	三回戦敗退
2014	二回戦敗退
2015	三回戦敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有する。主に練習はその校庭で行う。

3) 寮

寮は所有していない。

4)

スポーツ推薦による積極的な選手獲得なし。入学希望者の練習参加は受け入れている。

第16項 香芝

1) 戦績の変遷

表 17 香芝の戦績変遷

香芝	
2007	予選トーナメント一回戦敗退
2008	準々決勝敗退
2009	準々決勝敗退
2010	出場
2011	決勝敗退
2012	出場
2013	準決勝敗退
2014	準々決勝敗退
2015	出場

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有する。主に練習はその校庭で行う。また、近隣にある香芝フットサルパークを使用することもある。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による選手獲得なし。入学希望者の練習会参加は受け入れている。

第17項 駒大高

1) 戦績の変遷

表 18 駒大高の戦績変遷

駒大高	
2007	都大会一回戦敗退
2008	準決勝敗退
2009	準々決勝敗退
2010	出場
2011	準決勝敗退
2012	都大会一回戦敗退
2013	決勝敗退
2014	準々決勝敗退
2015	出場

2) グラウンド

サッカー専用グラウンドを持っていない。学校敷地内に人工芝のグラウンドを所有するものの、正規の広さをとれるほどではない。系列である駒澤大学玉川キャンパスにある人工芝のサッカーグラウンドで練習を行うことがあるが定期的なものではない。そのためスタッフが近隣のグラウンド確保に精を出している。

3) 寮

寮は所有していないため、全選手が家から通学している。

4) 選手獲得

毎年練習会及びセレクションを実施している。サッカー推薦による入学枠は5～7名程度しかないため多くの生徒は一般試験によって入学している。特待制度はない。

第18項 座間

1) 戦績の変遷

表 19 座間の戦績変遷

座間	
2007	2次予選決勝敗退
2008	準決勝敗退
2009	一次予選二回戦敗退
2010	出場
2011	準決勝敗退
2012	決勝敗退
2013	決勝敗退
2014	二回戦敗退
2015	三回戦敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有する。主に練習はその校庭で行う。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

公立高校のため積極的な選手の獲得は行えないが、入学希望者の練習参加は随時受け入れている。

第19項 市立西宮

1) 成績の変遷

表 20 市立西宮の戦績変遷

市立西宮	
2008	県大会二回戦敗退
2009	県大会一回戦敗退
2010	準決勝敗退
2011	出場
2012	県大会二回戦敗退
2013	準々決勝敗退
2014	県大会三回戦敗退
2015	県大会一回戦敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有する。主に練習はその校庭で行うが、西宮市内にある西宮浜総合公園内にある人工芝のグラウンドで練習を行うこともある。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による積極的な選手獲得は行っていないものの西宮市内の出身者が入学し、約半数が西宮少年サッカースクール出身者である。全国大会に出場した時の三年生は、市立西宮を強くしたいと集まった西宮少年サッカースクール出身のメンバーが中心で構成されていた。市立西宮は進学校のため、入学の際は学業成績が考慮される。

第20項 富山南

1) 成績の変遷

表 21 富山南の戦績変遷

富山南	
2008	三回戦敗退
2009	準決勝敗退
2010	準決勝敗退
2011	出場
2012	準々決勝敗退
2013	二回戦敗退
2014	三回戦敗退
2015	一回戦敗退

2) グラウンド

校庭として天然芝のグラウンドを所有する。主に練習はそこで行う。ただし、天然芝の状態は整備されていないため、良好と言えない。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による積極的な選手獲得なし。入学希望者の練習参加は受け入れている。

第 2 1 項 正智深谷

1) 戦績の変遷

表 22 正智深谷の戦績変遷

正智深谷	
2009	決勝トーナメント二回戦敗退
2010	決勝敗退
2011	準々決勝敗退
2012	出場
2013	決勝敗退
2014	準々決勝敗退
2015	出場

2) グラウンド

土のサッカー専用グラウンドを 1 面所有。その他に、系列である埼玉工業大学の人工芝サッカーグラウンドを練習で使用している。

3) 寮

寮は所有している。

4) 選手獲得

練習会を実施し、その参加者を中心に選手獲得を主に行っている。スポーツ推薦入試あり。ただし中学校の校長推薦がもらえる者のみが対象。特待制度もあり、待遇は授業料の免除である。

第22項 創造学園

1) 戦績の変遷

表 23 創造学園の戦績変遷

創造学園	
2009	四回戦敗退
2010	四回戦敗退
2011	四回戦敗退
2012	出場
2013	準々決勝敗退
2014	準決勝敗退
2015	準決勝敗退

2) グラウンド

自前のグラウンドを所有していないため、近隣の人工芝のグラウンドを借りながら練習を行っている。

3) 寮

寮は所有しているが、入学の段階で、創造学園を第一志望とするのみを優先的に受け入れている。大半が県外からの選手が寮で暮らしている。

4) 選手獲得

入試制度ではスポーツ推薦があり、監督が認めたものがそれに値する。特待生制度もあり、監督の判断で決まるが待遇は授業料の免除である。

第23項 長崎総合科学大学附属

1) 戦績の変遷

表 24 長崎総合科学大附の戦績変遷

長崎総合科学大附	
2009	県大会二回戦敗退
2010	県大会二回戦敗退
2011	準々決勝敗退
2012	出場
2013	出場
2014	出場
2015	準々決勝敗退

2) グラウンド

土のサッカー専用のグラウンドを所有する。このグラウンドを中心に練習は月から日から休みなく毎日行っている。

3) 寮

サッカー部専用の寮を所有している。

4) 選手獲得

長崎県内の選手が中心に入学しているが、遠くは群馬や神奈川などの関東圏の選手も入学してくる。スカウティングというよりも小嶺氏、定方氏への信頼から選手が学校を選ぶようになっている。スポーツ推薦による入学制度はある。学業面の成績や中学の学校長からの推薦が得られることが条件となっている。特待生としての受け入れも行っており、待遇は授業の免除である。

第24項 札幌大谷

1) 戦績の変遷

表 25 札幌大谷の戦績変遷

札幌大谷	
2010	地区代表決定戦敗退
2011	道大会二回戦敗退
2012	道大会二回戦敗退
2013	出場
2014	準決勝敗退
2015	出場

2) グラウンド

サッカー専用グラウンドを人工芝所有する。また近隣にある天然芝のサッカーグラウンドでも練習を行う。

3) 寮

寮は所有していない。しかし遠方からの入学者は、他校の生徒と共同の学生会館に入る。

4) 選手獲得

寮を所有していないため、道内の通学可能範囲の選手で構成される。道外出身者は、創部以来2名しかいない。サッカー推薦による入学のためのセレクションは行っていないが、学校公開日やサッカー部説明会を設け、受験生に対するサッカー部の紹介は順次行っている。また監督決定権による特待生制度があり、毎年数名程度、授業料免除待遇で選手を獲得している。特待生の選定は、監督が直接選手を視察することで決定している。

第25項 米沢中央

1) 戦績の変遷

表 26 米沢中央の戦績変遷

米沢中央	
2010	三回戦敗退
2011	一回戦敗退
2012	準々決勝敗退
2013	出場
2014	準決勝敗退
2015	準々決勝敗退

2) グラウンド

サッカー専用のグラウンド所有はなし。学校の校庭は土で、他の部活動と共有している。練習は近隣にある市営のサッカー専用グラウンドを借りて行うことがある。

3) 寮

寮は所有していない。しかし、学校の近隣に3階建ての家をサッカー部が借り上げ、遠方からの選手を受け入れている。基本的には、監督が管理している。

4) 選手獲得

サッカー推薦による入学のためのセレクションはなし。事前に声をかけた選手で、監督がプレーを見て判断した者のみがサッカー推薦によって入学が認められる。また受験の際には、中学校長の推薦がないとサッカー推薦による受験はできない。特待制度もある。待遇は、授業料の免除。基本的にはサッカーの技術面を監督が評価をして、有無を判断している。監督が愛知県出身ということもあり、愛知県から多くの選手が入学してきている。

第26項 宇治山田商業

1) 成績の変遷

表 27 宇治山田商業の戦績変遷

宇治山田商業	
2011	二次リーグ敗退
2012	二次リーグ敗退
2013	二次リーグ敗退
2014	出場
2015	準々決勝敗退

2) グラウンド

校庭としての土のグラウンドを所有する。主に練習はその校庭で行う。2013年に完成した人工芝4面、天然芝1面を有する伊勢フットボールヴィレッジで練習を行うこともある。

3) 寮

寮は所有していない。

4) 選手獲得

スポーツ推薦による選手獲得なし。入学希望者の練習参加は受け入れている。

第27項 昌平

1) 戦績の変遷

表 28 昌平の戦績変遷

昌平	
2011	決勝トーナメント一回戦敗退
2012	一次予選二回戦敗退
2013	準決勝敗退
2014	出場
2015	準決勝敗退

2) グラウンド

人工芝サッカー専用グラウンド1面所有する。

3) 寮

寮は所有している。寮には、サッカー部とラグビー部のみ入寮可能。特にサッカー推薦による入学者が優先的に入寮できる。

4) 選手獲得

毎年夏場に練習会を行い、監督自ら選手を見て声をかけて選手獲得を行っている。サッカー推薦による入学制度あり。特待制度もあり。待遇は授業料の免除である。

第2節 研究結果まとめ

表 29 項目まとめ

	学校名	専用グラウンド	寮	選手獲得	出場回数
1	伊勢崎商業	天然芝(校庭)	×	×	1
2	甲府東	土(校庭)	×	×	1
3	常葉橘	人工芝	○	×	2
4	流経大柏	人工芝(2面)	○	○	4
5	神村学園	人工芝	○	○	4
6	尚志	人工芝	○	○	7
7	帝京大可児	人工芝(2面)	○	○	4
8	福知山成美	×	○	○	1
9	埼玉栄	土	○	○	1
10	高知中央	×	○	○	1
11	大阪桐蔭	人工芝	○	○	1
12	京都橘	×	×	○	5
13	富岡	人工芝	○	○	2
14	藤枝明誠	人工芝	○	×	1
15	宇部	土(校庭)	×	×	1
16	香芝	土(校庭)	×	×	3
17	駒大高	×	×	○	2
18	座間	土(校庭)	×	×	1
19	市立西宮	土(校庭)	×	×	1
20	富山南	天然芝(校庭)	×	×	1
21	正智深谷	土	○	○	2
22	創造学園	×	○	○	1
23	長崎総科大附	土	○	○	3
24	札幌大谷	人工芝	×	○	2
25	米沢中央	×	○	○	1
26	宇治山田商	土(校庭)	×	×	1
27	昌平	人工芝	○	○	1

表 30 3項目を満たす学校

	学校名	グラウンド	寮	選手獲得	出場回数
1	埼玉栄	土	○	○	1
2	尚志	人工芝	○	○	7
3	昌平	人工芝	○	○	1
4	神村学園	人工芝	○	○	4
5	正智深谷	土	○	○	2
6	大阪桐蔭	人工芝	○	○	1
7	長崎総科大附	土	○	○	3
8	帝京大可児	人工芝(2面)	○	○	4
9	富岡	人工芝	○	○	2
10	流経大柏	人工芝(2面)	○	○	4

表 31 3項目のうち2項目を満たす学校

	学校名	グラウンド	寮	選手獲得	出場回数
1	高知中央	×	○	○	1
2	札幌大谷	人工芝	×	○	2
3	常葉橘	人工芝	○	×	2
4	創造学園	×	○	○	1
5	藤枝明誠	人工芝	○	×	1
6	福知山成美	×	○	○	1
7	米沢中央	×	○	○	1

表 32 3項目のうち1項目を満たす学校

	学校名	グラウンド	寮	選手獲得	出場回数
1	伊勢崎商業	天然芝(校庭)	×	×	1
2	市立西宮	土(校庭)	×	×	1
3	宇治山田商	土(校庭)	×	×	1
4	宇部	土(校庭)	×	×	1
5	香芝	土(校庭)	×	×	3
6	京都橘	×	×	○	5
7	甲府東	土(校庭)	×	×	1
8	駒大高	×	×	○	2
9	座間	土(校庭)	×	×	1
10	富山南	天然芝(校庭)	×	×	1

対象校私立 18 校、公立 9 校、計 27 校に関する 3 項目を調査した結果、グラウンドは 27 校中 21 校、寮は 27 校中 16 校、選手獲得は 27 校中 17 校で実施されていた。

全ての項目を満たす学校は 10 校あり、私立は 9 校、公立は富岡の 1 校であった。2 項目を満たす学校は 7 校あり、すべて私立の学校である。1 項目を満たす学校は 10 校あり、私立は京都橘と駒澤大学高校の 2 校であり、いずれもスポーツ推薦による選手獲得のみ行っている。公立高校では伊勢崎商業、甲府東、座間、香芝、宇部、富山南、市立西宮、宇治山田商業の 8 校であった。8 校は共通して校庭として所有するグラウンドの項目だけを満たしている。全ての項目を満たさない学校はなかった。

また、全国大会に初出場後に複数回出場した高校は 27 校中 12 校であった。

第 3 節 対象校の背景

第 1 項 加盟校数

2015 年度現在、全国高等学校体育連盟の加盟校数は全体で 4144 校である。

対象校地域における最多は駒澤大学高校の東京で 351 校、次いで大阪桐蔭の大阪 239 校、座間の神奈川 235 校、札幌大谷の北海道 215 校、市立西宮の兵庫 180 校であった。逆に最少は高知中央の高知 36 校、次いで香芝の奈良 39 校、甲府東の山梨 40 校、米沢中央の山形、富山南の富山ともに 36 校であった。

表 33 加盟校数

県名	加盟校数	県名	加盟校数
北海道	215	滋賀	59
青森	55	京都	84
岩手	58	大阪	239
秋田	34	奈良	39
宮城	69	和歌山	33
山形	46	兵庫	180
福島	80	岡山	78
茨城	108	鳥取	22
栃木	68	島根	35
千葉	179	広島	109
埼玉	193	山口	48
東京	351	香川	38
神奈川	235	徳島	28
群馬	67	愛媛	49
山梨	40	高知	36
長野	90	福岡	135
新潟	94	佐賀	38
富山	46	長崎	57
石川	39	熊本	68
福井	32	大分	45
静岡	126	宮崎	47
愛知	196	鹿児島	80
岐阜	62	沖縄	61
三重	53	全体	4144

第2項 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数

全国大会出場経験校数は、最多が2つの代表校のある東京で9校、次いで埼玉と大阪で6校、その他14の道府県で5校が出場していた。1校のみが継続して出場しているのは青森と石川だけ2県である。その他の45都道府県には2校以上の全国大会出場経験校がある。

本研究の対象校地域では、帝京大可児の岐阜だけが2校で、岐阜工業と優勝を分け合っている。流通経済大学柏の千葉、伊勢崎商業の群馬、宇治山田商業の三重、神村学園の鹿児島で3校の出場となっている。その他の対象校の地域では、過去10年間で4校以上が出場している。

表 34 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数

都道府県	出場校数	出場校					
北海道	5	北海	室蘭大谷	旭川実	札幌大谷	大谷室蘭	
青森	1	青森山田					
岩手	5	遠野	盛岡商	不来方	盛岡市立	盛岡中央	
秋田	3	西目	秋田商	新屋			
宮城	5	利府	宮城県工	東北	聖和学園	仙台育英	
山形	4	山形中央	羽黒	米沢中央	東海大山形		
福島	4	湯本	尚志	富岡	聖光学院		
茨城	4	鹿島学園	水戸啓明	鹿島	第一学院		
栃木	4	真岡	矢板中央	宇都宮柏陽	佐野日大		
千葉	3	流経柏	八千代	市立船橋			
埼玉	6	浦和東	武南	埼玉栄	市立浦和	正智深谷	昌平
東京	9	成立学園	東久留米総合	帝京	駒場	実践学園	
		修徳	国学院久我山	三鷹	駒澤大高		
神奈川	5	麻布大附	桐光学園	日大藤沢	武相	座間	
群馬	3	伊勢崎商	前橋育英	桐生一			
山梨	5	甲府東	帝京三	韮崎	山梨学院	日本航空	
長野	5	上田西	都市大塩尻	松商学園	東海大三	創造学園	
新潟	5	帝京長岡	高志	北越	新潟西	開志学園 JSC	
富山	3	富山一	水橋	富山南			
石川	1	星稜					
福井	2	丸岡	福井商				
静岡	5	常葉学園橘	静岡学園	藤枝東	藤枝明誠	清水商	
愛知	3	中京大中京	東海学園	東邦			
岐阜	2	岐阜工	帝京可児				

三重	3	四日市中央工	津工	宇治山田商			
滋賀	4	野洲	守山北	綾羽	草津東		
京都	5	城陽	福知山成美	久御山	京都橘	立命館宇治	
大阪	6	大阪朝鮮	近大附	大阪桐蔭	関西大一	東海大仰星	履正社
奈良	4	一条	奈良育英	香芝	郡山		
和歌山	3	和歌山北	初芝橋本	近大和歌山			
兵庫	4	滝川二	神戸科学技術	市立西宮	神戸弘陵		
岡山	2	作陽	玉野光南				
鳥取	2	境	米子北				
島根	3	立正大湘南	江の川	大社			
広島	3	広島観音	広島皆実	山陽			
山口	5	西京	高川学園	山口	宇部	聖光	
香川	2	高松商	香川西				
徳島	3	徳島商	鳴門	徳島市立			
愛媛	5	松山工	済美	松山北	宇和島東	松山商	
高知	5	高知	高知中央	明德義塾	土佐	高知商	
福岡	3	東福岡	九州国際大附	筑陽学園	東海第五		
佐賀	3	佐賀東	佐賀北	佐賀商			
長崎	4	国見	島原商	長崎日大	長崎総科大附		
熊本	4	大津	ルーテル学院	熊本国府	秀岳館		
大分	5	柳ヶ浦	大分鶴崎	情報科学	中津東	大分	
宮崎	2	鵬翔	日章学園				
鹿児島	3	鹿児島実	神村学園	鹿児島城西			
沖縄	5	那覇西	那覇	南風原	宮古	前原	

第3項 対象校の地域におけるJリーグチームとの関連性

2015年Jリーグ開幕現在、37都道府県に本拠地を置くJ1の18クラブ、J2の22クラブ、J3の12クラブの合計52クラブが存在し、Jリーグクラブが存在しないのは青森、福井、三重、滋賀、奈良、和歌山、島根、高知、宮崎、鹿児島¹の10の地域である。

対象校の地域を見ると22地域のうち神村学園の鹿児島、高知中央の高知、香芝の奈良、宇治山田商業の三重の4つの地域にはJリーグクラブがない。

表 35 対象校の所属する地域における Jリーグチーム

	学校名	都道府県	Jクラブ (2015年所属リーグ)
1	流経大柏	千葉	柏レイソル (J1) ジェフ千葉 (J2)
2	常葉橘	静岡	ジュビロ磐田 (J2) ・清水エスパルス (J1) ・藤枝 MYFC (J3)
3	尚志	福島	福島ユナイテッド FC (J3)
4	帝京大可児	岐阜	FC 岐阜 (J2)
5	福知山成美	京都	京都サンガ (J2)
6	神村学園	鹿児島	なし
7	埼玉栄	埼玉	浦和レッズ (J1) 、大宮アルディージャ (J2)
8	高知中央	高知	なし
9	大阪桐蔭	大阪	ガンバ大阪 (J1) 、セレッソ大阪 (J2)
10	京都橘	京都	京都サンガ (J2)
11	藤枝明誠	静岡	ジュビロ磐田 (J2) ・清水エスパルス (J1) ・藤枝 MYFC (J3)
12	駒大高	東京	FC 東京 (J1) 、東京ヴェルディ (J2) 、町田ゼルビア (J3)
13	正智深谷	埼玉	浦和レッズ (J1) 、大宮アルディージャ (J2)
14	創造学園	長野	松本山雅 (J1) 、長野パルセイロ (J2)
15	長崎総科大附	長崎	Vファーレン長崎 (J2)
16	札幌大谷	北海道	コンサドーレ札幌 (J2)
17	米沢中央	山形	モンテディオ山形 (J2)
18	昌平	埼玉	浦和レッズ (J1) 、大宮アルディージャ (J2)
19	伊勢崎商業	群馬	ザスパ草津 (J2)
20	甲府東	山梨	ヴァンフォーレ甲府 (J1)
21	富岡	福島	福島ユナイテッド FC (J3)
22	座間	神奈川	横浜 F マリノス (J1) 、川崎フロンターレ (J1) 、湘南ベルマーレ (J1) 横浜 FC (J2) 、YSCC (J3) 、SC 相模原 (J3)
23	香芝	奈良	なし
24	宇部	山口	レノファ山口 (J3)
25	富山南	富山	カタレ富山 (J2)
26	市立西宮	兵庫	ヴィッセル神戸 (J1)
27	宇治山田商	三重	なし

第5章 考察

本研究の考察では、3項目を満たしている学校、2項目を満たしている学校、1項目を満たしている学校についてまず考察する。その後、対象校の背景について加盟校数、全国大会出場校数、Jリーグチームとの関連性について考察する。

第1節 3項目に基づく考察

第1項 3項目を満たす学校

3項目を満たす10校のうち7校は初出場後も複数回全国大会出場を果たしている。3項目を揃えることで全国大会の常連校になる可能性が高いことが示唆される。

3項目揃うのであれば特に重要視されるのが、グラウンドであると考えられる。グラウンド環境が整備されていれば、選手にとって魅力的であることは間違いない。土の環境と違い雨天時にも使用が可能であることや、ボールのコントロールのしやすさなどメリットが多くあげられる。土のグラウンドと比較してデメリットがないと考えられる。この項目に加え、遠方からの選手受け入れが可能となる寮とスポーツ推薦により選手獲得ができることで、より強固なチームになることを想像がつく。3項目を満たす学校がいかに初出場に近く、そして常連校でなる可能性があることがわかる。

3項目を満たす代表校である流通経済大学附属柏は、2005年度の初出場後、二回目の出場となった2007年度の86回大会において全国優勝を果たした。その後も全国大会に出場すれば安定した成績を残している。また、2015年度現在、ユース年代の最高峰の戦いであるプレミアリーグ EASTにも参戦し、環境面において充実するJリーグの下部組織チームとも互角以上の戦いを繰り広げている。まさに本田裕一郎監督就任による強化スタート以降、急激に力をつけ高校サッカー部のみならずユース世代におけるトップレベルのチームへと成長した。流通経済大学附属柏は2001年の本田監督の就任と同時に、本田監督の前歴である習志野高校から選手が移籍、さらには習志野に入学予定であった選手も本田監督の指導を受けたく、自らの意志で入学してきた。それらの選手を中心に強化が始められた。2002年にはサッカー部専用の寮が建設され、2003年にはサッカー専用の土のグラウンドが整備された。このグラウンドは2005年には人工芝になりより環境が向上した。本田監督の就任以降着々と環境を整え、2005年度の初出場へとつながることとなる。現在、流通経済大学附属柏のプロ輩出数は、2001年度から2014年度現在で22名を数える。清水エスパルス所属の大前元紀選手や名古屋グランパス所属の田口泰士選手など、これらの選手はJリーグチームにおいてもレギュラーとなり、貴重戦力となっている選手が多数である。これは、本田監督の指導、充実した環境、優秀な選手が集まっているからこそ良質な選手が育成することができたと推測する。

また尚志は、初出場した2006年度から2015年度現在に至るまで福島県大会において7回優勝している。福島県内では、圧倒的な力を示している。全国大会では、2011年度の90回大会においてベスト4進出の成績を残した。J3所属の福島ユナイテッドFCの前身

である福島 FC でプレーをしていた仲村浩二氏は、引退した 1997 年から創部と同時に尚志の監督に就任し、強化が始められた。選手としての実績があり、仲村監督の評判は瞬く間に広まった。就任した翌年には関東圏からの選手獲得を積極的に行った。仲村監督が就任以前から寮はあり、遠方からの受け入れは可能であった。そうした環境のなかで、仲村監督のもとサッカーをしたい選手が集まるようになった。現在も選手の構成は関東圏からの選手が中心であるが、尚志でサッカーをやりたいと思えるほどのサッカー環境が整っているからだと考える。

流通経済大柏や尚志のように 3 項目を満たすことで、全国大会に安定して出場するばかりか、優秀な選手を獲得に成功し、強豪校としての地位が確立されるのではないかと考える。

第 2 項 2 項目を満たす学校

3 項目のうち 2 項目を満たす学校は 7 校である。そのうち初出場後も出場できたのは、札幌大谷と常葉橘の 2 校である。その他の学校はその後の全国大会出場がない。そのため常連校になる要因として本研究の 3 項目が有効な方策であるとは言えない。

複数回出場を果たしている札幌大谷と常葉橘を見ると、札幌大谷は寮の項目、常葉橘は選手獲得の項目を満たしていない。しかしながら寮の項目を満たしていない札幌大谷であるが、遠方からの入学者に対して他校の生徒と共同の学生会館に入る施設があることから、寮という項目を準拠していると考えることができる。また選手獲得の項目を満たしていない常葉橘は実際にはサッカー王国である静岡県に位置しており、特別なリクルーティングを行わずともレベルの高い選手が入学する可能性は多いにあり得る。

このように札幌大谷と常葉橘は 2 項目しか満たしていないとはいえ、3 項目に準拠していると十分にいえると考えられる。

第 3 項 1 項目を満たす学校

3 項目のうち 1 項目を満たす学校は私立では京都橘と駒澤大学高校の 2 校でともにスポーツ推薦による選手獲得だけを行っている。公立では 8 校が該当し 8 校は校庭としてのグラウンドのみを所有している。複数回の出場は私立の京都橘と駒澤大学高校、公立では香芝だけが果たしている。

1 項目を満たす学校は、サッカーを育てる環境としては不十分であると考えられる。その学校が持ち合わせる外面的な魅力は乏しいであろう。そのため、指導者の思考が問われるだろう。ないものをつくることはできないが、あるものを磨くことはできる。それは指導者の方針、理念、サッカー観を明確に示し、うちのサッカーはこうだ、あるいはうちに入学したらこうなれるという他との差別化を図るためのソフト面での方策が必要だろう。来た選手を自前の環境の中でいかに大切に育てるのか、指導者を中心とした組織づくりが求められるだろう。

1項目を満たす学校である京都橘は2008年度の87回大会に初出場後、2012年度の91回から2015年度の94回大会に至るまで4大会連続で出場し、91回大会準優勝、92回大会ベスト4、93回大会ベスト8と、上位進出している。好成績を収める要因として、米澤一成監督が日本体育大学時代に指導を受けたアーリー・スカンス監督の影響で、ダッチビジョンというオランダ式のポゼッション思考のサッカーを理念に掲げた。ダッチフットボールとは、ポジションを相手に合わせて柔軟に変化させ、全員攻撃・全員守備で相手のサッカーを完全に支配して勝つといった考え方が基本である。そうした米澤監督が理念に基づいたサッカーを京都橘が行っていることは周囲に浸透し始め、それに共感して選手が徐々に集まるようになってきた。Jリーグの下部組織から声がかかるほどの選手であっても、米澤監督の人柄を含めて、京都橘であれば成長できると感じ、入学している。確立された方針や理念がありそれを発信されているからこそ優秀な選手が集まると考える。高校選手権の選手構成を見ると、地元京都の選手が中心であるものの、隣県からも来ていることがわかる。現在は、寮を持たないため遠方から入学してくる選手は長時間の電車通学だけでなく新幹線を利用しての通学をしている選手もいる。また、地元Jリーグチームの京都サンガF.C.の下部組織である京都サンガF.C. U15から選手を積極的に受け入れている特徴がある。ユースチームへ昇格できなかったとはいえ下部組織で磨かれた選手を受け入れることで、チームのレベルは一層高くなる。

また駒澤大学高校は、2015年現在部員数約250名、スタッフ16名を誇る大所帯の高校であるが、専用のグラウンドを持っていない。学校には人工芝のグラウンドがあるが、広さはテニスコート3面程度である。そのため250人が同時に練習するには不十分である。前述の通り駒澤大学玉川キャンパスにあるサッカーグラウンドを使用して練習することはあるが、大学のサッカー部が使わない時だけ使用ができるため不定期なものである。250名の部員に平等に練習の機会を与えるためにスタッフがグラウンドの確保に日々精を出している。しかしながら、駒澤大学高校のスタッフの話で、「部員がやめないことが誇り」と語っていた。恵まれた練習環境はないものの、入部した一人一人を大切に育てるという思考があるからこそ、選手の愛部精神へとつながっているとスタッフは考えている。また、選手の編成チーム間移動は頻繁に行われている。編成チームも8チーム程度あり、毎日のように編成は変更される。スタッフが日々の選手の取り組みを評価し、良い選手はどんどん昇格をさせ、逆にもう少し下で見たいという選手は降格させ、それぞれの適正に合わせたチームで育成している。これは選手の競争意識を植え付け、努力すれば自分も昇格できるという高い意識を持たせることにつながっている。スタッフが限なくチェックすることで全員が平等にチャンスを与えられていることに気づき、チームはより活性化されている。

選手獲得の1項目しか満たさない学校であっても、指導者を中心としたソフト面を強化することで選手獲得を成功させることを京都橘と駒澤大学高校は証明している。そして3項目において選手獲得が重要な項目であると示唆される。

1項目のみを満たす公立高校においては、初出場後全国大会に出場できていない学校が多

い。また地方予選における成績も振るわず、やや衰退傾向にある。これは積極的且つ安定的な選手獲得が行えないことが原因ではないだろうか。公立高校は私立高校に勝る、歴史と伝統を武器にしてそれぞれの学校の特色を示したソフト面の強化を行う必要があるだろう。

第2節 対象校における背景

第1項 加盟校数

加盟校数の差は、全国大会出場までの道のりの険しさを表していると考ええる。

最多の東京の代表と、最少の鳥取の代表とでは大きな開きがあり、351校のなかから出場する東京の代表というのは、勝ち抜くことが並大抵なことではなく相当な強化が必要な地域であることがわかる。

対象校地域では、特に複数回出場している地域に目を向けると、流通経済大柏の千葉や正智深谷の埼玉、駒澤大学高校の東京は、加盟校数が比較的多く、激戦を勝ち抜いて全国大会に出場し、常連校になっていると考ええる。

第2項 過去10年における全国高校サッカー選手権大会出場校数

10年間連続で出場を続けているのは青森の青森山田と石川の星稜だけであり、このことから地方予選を勝ち抜くことが容易でない地域が全国的に多くどこの学校が勝ってもおかしくないと言える。

対象校地域では、最多は駒澤大学高校の東京で9校である。東京は加盟校数が圧倒的に多いことから2校が全国大会に出場することができる。代表枠が2枠あるとはいえ9校が出場しているということは激戦区であることをあらわしていると考ええる。

東京に続いて埼玉、大阪が6校出場している。10年間で6校が出場をしているということは、どこが勝ってもおかしくないほど各校の実力が均衡化しているのではないかと考えられる。

しかしながら激戦区を勝ち抜いて代表となった東京や埼玉、大阪の学校は、近年全国大会の舞台で上位進出できていない事実がある。東京は、帝京の1991年度大会の優勝、1997年度大会、1998年度大会の準優勝を最後に上位進出できていない。埼玉においては、1981年度大会の武南の優勝、1992年度大会のベスト4を最後に、上位進出できていない。大阪も2009年度大会の関西第一のベスト4のみが近年における好成績である。全国大会出場校数が多い地域の地方予選は激戦区であると考えられるが、その予選を勝ち抜いても全国大会では上位進出という結果を残せていないのが現状である。

また本研究の対象校では全国大会の出場が東京の駒澤大学高校で2回、埼玉の正智深谷が2回、埼玉栄、昌平が1回、大阪の大阪桐蔭が1回である。駒澤大学高校と正智深谷だけが複数回出場している。今後の全国大会の出場を果たすことで真の常連校と言えるので

はないか。

本研究の対象校地域では比較的少ない千葉の代表校は全国大会に出場すれば上位進出を果たしている。過去 10 年間では、市立船橋、八千代、そして本研究の対象校である流通経済大柏の 3 校が出場している。市立船橋が 2011 年度大会で優勝、八千代が 2006 年度大会でベスト 4、流通経済大柏が 2007 年度大会で優勝、2010 年度大会ベスト 4、2014 年度大会ベスト 4 と千葉県勢は結果を残している。このことから、千葉は過去 10 年間の代表校が 3 校とはいえ、真の強さをもった学校が存在する最激戦区ではないかと考えられる。代表校数が少ないからといって激戦区ではないと言い切れないのである。この最激戦区千葉において勝ち抜き、全国大会の常連校となっている流通経済大柏がサッカー部の強化によって成功している最高の例であると考ええる。

第 3 項 対象校の所属する地域における J リーグチームとの関連性

対象校の地域 22 のうち 18 の地域で J リーグクラブが存在しているため、本研究の対象校地域は比較的サッカーが根付いている地域と考えられる。J リーグクラブが地域にあることで、子どもたちは早い時期から高いレベルのサッカーを身近に感じることができ、そこを目指す高い意欲・意識が芽生えたと考えられる。そうした結果、育成年代が活性化されるのではないか。そのような環境下で育った選手が地元の中学や高校の部活、あるいはクラブチームに入ること、サッカーのレベルは一層向上していくと考える。

複数回出場を果たしている 12 校の 11 地域に目を向けると、神村学園の鹿児島と香芝の奈良にだけ J リーグクラブがない。その他の 9 の地域には J リーグクラブが存在し、それらの地域には各クラブの下部組織があるであろう。そのため地域全体の育成年代のレベルの底上げが図られると考える。

J リーグクラブがない 2 つの地域においても、J リーグ入りを目指すクラブが存在する。鹿児島は鹿児島ユナイテッド FC、奈良は奈良クラブである。この 2 つのクラブは 2015 年現在、J リーグの下に位置するアマチュアサッカーリーグの最高峰である JFL に所属している。その鹿児島ユナイテッド FC は 2015 シーズンの JFL で上位に入り 2016 年シーズンより J3 への参入が決まっている。奈良クラブにおいても J リーグクラブに劣らない戦力を抱えており近い将来 J リーグ入りが果たされる可能性が高いと考えられる。したがって本研究の対象校で複数回出場している学校の地域において 2015 年現在は J リーグクラブがない地域があるとはいえ、全地域で J リーグクラブがあることに準拠していると考えられる。

J リーグクラブが地域にあることでサッカーをしている人だけでなく、そこで暮らす人たちにとっても効果があると考えられる。それはサッカーを観る機会がつけられ、身近に感じられるようになり、サッカーの裾野を広げる役割を担うだろう。J リーグクラブが地域にもたらす影響は多大だと考える。

第3節 今後の課題

本研究では、3項目に絞って対象校に関する調査を行ったが、必ずしも3項目だけが常連校になり得る項目とは限定できない。そのため本研究とは異なった観点からの研究を行い、常連校になる可能性がある要因を探ることを今後の課題とする。

第6章 結論

3年前まで地方予選ベスト8未満で敗れていた全国的無名校が、全国高校サッカー選手権大会において初出場後、常連校となるための方策として3項目が有効であるかを明らかにすることを目的とした。本研究の対象校27校のうち、複数回出場できたのは12校であった。そして、この12校のうち、3項目を満たしている学校は7校あり、これら3項目を満たすことで必ず勝てるようになるとは断言できないが、常連校になるための有効な方策であるということが示唆された。

参考文献

1. 伊勢崎商業高校 www.isyo-hs.gsn.ed.jp/
2. 甲府東高校 www.higasih.kai.ed.jp/
3. 常葉学園橘高校 www.tokoha.ac.jp/tachibana-jh/
4. 流通経済大学附属柏高校 www.ryukei.ed.jp/
5. 神村学園高校 www.kamimura.ac.jp/
6. 尚志高校 www.shoshi.ed.jp/highschool/
7. 帝京大可児高校 www.teikyo-kani.ed.jp/
8. 福知山成美高校 hs.seibi-gakuen.ac.jp/
9. 埼玉栄高校 www.saitamasakae-h.ed.jp/
10. 高知中央高校 www.kochi-chuo.ed.jp/
11. 大阪桐蔭高校 www.osakatoin.ed.jp/
12. 京都橘高校 www.tachibana-hs.jp/
13. 富岡高校 www.tomioka-h.fks.ed.jp/
14. 藤枝明誠高校 fgmeisei.net/
15. 宇部高校 www.ube-h.ysn21.jp/
16. 香芝高校 www.nps.ed.jp/kashiba-hs/
17. 駒澤大学高校 www.komazawa.net/
18. 座間高校 <http://www.zama-h.pen-kanagawa.ed.jp>
19. 市立西宮高校 kusunoki.nishi.or.jp/school/ichinish/
20. 富山南高校 <http://www.tym.ed.jp/sc338/>
21. 正智深谷高校 www.shochi.jp/
22. 創造学園高校 www.souzouhs.ac.jp/
23. 長崎総合科学大学附属高校 www.nias.ed.jp/
24. 札幌大谷高校 www.s-ohtani.ed.jp/
25. 米沢中央高校 www.ychuo-h.ed.jp/
26. 宇治山田商業高校 www.mie-c.ed.jp/cujiya/
27. 昌平高校 www.shohei.sugito.saitama.jp/
28. 青森山田高校サッカー部 HP http://footballnavi.jp/aomori_yamada/
29. 星稜高校サッカー部 HP <http://seiryu.footballnavi.jp/>
30. Jリーグ HP www.jleague.jp/
31. 公益財団法人日本サッカー協会 HP www.jfa.jp/
32. 古賀康彦・堀野博幸（2013）「Jリーグクラブ・ユース指導者と高等学校サッカー一部指導者との指導哲学の比較」スポーツ科学研究, 10, 173-182, 2013 年
33. 義岡昌明・西聖二・笹子悠歩・山本正嘉（2012）「高校生サッカー選手に必要な基礎体力を総合的に改善するためのボールを利用したトレーニングプログラムの検討」ス

スポーツパフォーマンス研究, 4, 71-92, 2012

34. 報知高校サッカー第 81 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
35. 報知高校サッカー第 82 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
36. 報知高校サッカー第 83 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
37. 報知高校サッカー第 84 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
38. 報知高校サッカー第 85 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
39. 報知高校サッカー第 86 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
40. 報知高校サッカー第 87 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
41. 報知高校サッカー第 88 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
42. 報知高校サッカー第 89 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
43. 報知高校サッカー第 90 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
44. 報知高校サッカー第 91 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
45. 報知高校サッカー第 92 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
46. 報知高校サッカー第 93 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
47. 報知高校サッカー第 94 回選手権大会パーフェクトガイド 報知新聞社
48. 平成 27 年度 (公財) 全国高等学校体育連盟 加盟・登録状況【全日制+定通制】
www.zen-koutairen.com/pdf/reg-27nen.pdf
49. 高校サッカー90年史、全国高等学校体育連盟サッカー専門部編/著
50. 高校サッカー監督術、株式会社カンゼン、元川悦子著
51. 高校サッカー勝利学、株式会社カンゼン、本田裕一郎著
52. 監督たちの高校サッカー、株式会社東洋館出版社、青柳愛・笠井さやか著
53. 高校サッカー強豪・名門校の系譜 株式会社ベースボール・マガジン社
54. 星稜高校サッカー部優勝への軌跡 株式会社ベースボール・マガジン社 安藤隆人著

謝辞

本論文は、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科、平田竹男教授のご指導なくしては完成に至ることはありませんでした。ご多忙の中、構成から論文の細かな表現まで丁寧にご指導いただいたことに対して感謝し、厚く御礼申し上げます。先生にご指導いただいた数多くの時間は、私にとっての生涯の宝ものとなりました。この1年間を糧として、これからの人生においても努力を重ねていきたいと思えます。

また様々なご助言を賜り、多岐に渡りご指導いただいた副査の中村好男教授にも御礼申し上げます。同じく副査の児玉有子先生にも多方面に渡ってご指導をいただき深く御礼申し上げます。

本研究が完成に至るまで様々な面でご協力いただいた平田研究室の同期ゼミ生には常に刺激的な議論を頂き、精神的にも支えられました。私にとって同期の皆様は永遠の仲間であり、今後も親しくお付き合いしていただきたく思います。また研究を進める上でどんなお願いにも常に前向きに、快く応じてくれた学生修士の3人、多大なるサポートに感謝申し上げます。特に奥下諒さんには研究の進め方や悩みについて親身になって相談にのっていただきました。そのお力添えによって私の研究は完成させることができました。

私の研究に対してご協力いただいた各サッカー関係者の皆様、お忙しいなかお時間を頂戴し丁寧に対応して下さったこと感謝しております。

大学院入学に対して快く承諾してくれた大智学園高等学校関係者の皆様には深く感謝しております。特に西田尚行副校長の多大なるご支援なくして大学院生活を送ることはできませんでした。ありがとうございました。

最後にこれまで自分の思う道に対して温かく見守り、そして辛抱強く支援してくれた家族に対して深い意を表して謝辞とさせていただきます。